

MCC雑感2009-2

場所：丸紅本社1F コンチェルト

参加：9名

1) 今月のテーマ「ケータイ」



今や猫も杓子も「ケータイ」、ITの主役をパソコンから奪い取ってしまったかのように思われる。特に女性は片時も手放さず、ケータイ依存症かとすら云われているが、それにしても日本の携帯電話は機能の多様化、機種豊富さなど世界に冠たるものがある。

ところが、我がMCCのメンバーはと云えば、保有率こそ80%で全国平均並みではあるが、その利用の仕方とは云えば極めてお粗末・・・世間のお年寄り並で、殆んどが電話としての利用、それも駅などに公衆電話が無くなってしまったから、「今駅に着いたところ・・・」というカエルコール程度が精々、これでは我々もデジタル・ディバイドになりかねないというのが現状である。

かくてはならじと、ケータイに挑戦してみたが・・・これは厄介な項目！？？

A) ケータイの選び方

A) 何よりも大事なのは電話会社選び

○会社は5社

携帯電話、PHS会社の新規受付をしている会社は、NTT-ドコモ、KDD-au、ソフトバンク-Vodafone、ウィルコム、イーモバイルです。ウィルコムはPHSで、イーモバイルは現在音声通話サービスを行っていません。従って会社選びはドコモ、au、ソフトバンクの三つからということです。

○電波が一番大切

携帯電話で一番大切なことは電波です。都市部でも、建物の中や地下では電波が悪いことがあります。

一般論として、ドコモ、auに比べソフトバンクは電波が悪いと云われたこともあります。現在はこの点で3社に特に差はないと考えていいでしょう。

東京の地下道で殆んどの場合電波が通るといえるのは、日本の携帯電話が世界に冠たるサービスをしていると云ってもよいでしょう。

○料金ほどの会社が安いのか？

料金については、もうすでに家族が携帯電話を持っている場合は、同じ会社にして、家族割引にすることをお勧めします。家族間の通話料が割引になりますし、基本使用料の割引や契約解約料が安くなるなどの特典があるからです。

上記に該当しない方はどこにすればよいかですが、万人共通の答えはありません。一般論をいうと、安い順にソフトバンク<au<ドコモとなります。が、これはあくまで一般論であって、各社とも鎬を削って囲い込み合戦をしているのですから、現在ではほぼ均衡していると考えていいでしょう。

○サービスは3社横並び

以前は、GPSや着うたフルはau、おさいふケータイはドコモなど、会社によってサービスに違いがありましたが、今はほとんど違いはありません。ただ、サービスに対応している機種と、ない機種があるので機種選びの時に注意が必要です。

B) 機種を選び方

●携帯電話は目的で選ぶ

一般的な携帯電話は高機能、薄型が主流ですが、機会が苦手の人向けの簡単ケータイや子供向けのGPS／防犯ブザーなど安全機能充実型や、年寄り向けの通話専用ケータイなどもあるようです。

●基本的な機能が大切

本当に大切なのは基本的な機能です。具体的に項目を挙げると、

- ①大きさ、重さ。
- ②ボタンの押しやすさ、
- ③電池の持ちです。

●携帯電話の機能は使いこなせば便利**①ワンセグ**

ワンセグは携帯電話でテレビが見れる機能。ワンセグの利点は通信料がかからないことです。ただし、電池を消耗してしまうので、連続視聴時間が長い機種を選びましょう。ちなみにテレビを見れる機能には、ワンセグのほかにアナログテレビ機能もあります。

②GPS

GPS機能は、①自分の現在地を調べる②子どもの位置を把握する。などの使い方があるようです。ただし、GPSを利用して現在地を表示する場合、現在地の地図はインターネットから取得することになります。この地図情報が随時更新される場合、高額のパケット代が発生するので、利用する場合はパケット割引サービスに加入すべきでしょう。

③カメラ

今やほとんどの携帯電話に200万画素以上のカメラが搭載されるようになりました。このカメラ機能は写メールやおもしろい写真をとる以外にも、メモの代わりに写真をとるという利用法もあり、バスの時刻表や掲示物などの情報をメモ代わりに写真で保存してしまうと便利です。

B) ケータイ使いの極意**1) 先ずケータイを常に身近に置くことから総てが始まる**

ケータイをどうしたら自家薬籠中のものに出来るか？

これはとても難しい問題です。

まずケータイは非常な多機能であり、極めて小さなツールですから、操作については限られたボタンが幾通りにも使われます。パソコンのキーボードでは109のボタンが在るのに、ケータイでは20ヶしか無い。

当然一個のボタンがその時その時で複数の用途に使われるから、ややこしい！次に日々進化するツールなので、後から後から新しい機能が追加されて来て、折角一応は馴れたと思っても、常に進化に追いついていないとダメ。

電話会社間の競争の激しさはユーザーには料金の値下げや新しい機能の追加に繋がるので、有り難いのですが、それがまた事態を一層難しくさせてもいます。

と、云うわけで、ケータイを自在に使いこなすには、日常坐臥ケータイを手放さず、身体の一部とするくらいの生活パターンにせねばなりません。

これがお出かけの時だけ手にして、普段は固定電話とパソコンでやっている老人には云うべくして難しいことですね。

2) 常に電源を入れて置く

ケータイはパソコンと違ってすべてがリアルタイムのツールです。

電源は四六時中オンにして置かねばなりません。

これがバッテリー切れを心配する老人には難しいことですが、今のケータイは連続待受時間は340時間(14日間)、連続通話時間は220分(3.6時間)と非常に長く保つのですから、あまり神経質にバッテリー切れを心配して、電源をオフにすることは止めましょう。

そして、バッテリーを長持ちさせるには、充電もあまり頻繁にやらずに、バッテリーがカラになる直前にするようにした方がよいことも周知のことですね。

3) 購入時の契約内容の確保

購入時はセールスマンに一方的に喋りまくられて、何となくこれでいいと思って決めたであろうが、契約内容についてはきちんと記録を確保しておくべきが肝要である。

ケータイは使って馴れるツールであるから、買った時には全てが理解出来ないのであり、使って暫らく経つと自分の設定した料金プランが自分にとって適切でないということはよくあることである。

早い話が、最初は全ての機能が充たされていることを望むであろうが、半年も

経つと自分の生活パターンに則った使い方しかしていないことに気がつく。典型的な例は私のような老人はケータイは外出時の公衆電話代わりであって、ケータイで何時も話し合う相手もいないし、メールはパソコンでしかしないから、外からメールを発信するというニーズも皆無である。また外出時にインターネットを使うということは、過大な料金の請求が予想されてしまうので、あまり食指が動かない。となると、料金設定の仕方が下手で、無駄な料金を毎月自動的に引き落とされているという割高感に苛まれる結果となってしまう。

もっと悪い事は、この料金設定プランの変更には一定の期間しか出来ないということで、途中で解約・変更しようとする数千円から1万円に及ぶ解約料が課せられるのであるが、それは最初によく心して置かないと漫然と過している自分を恨めしく思う結果を招いてしまうので、注意が肝要である。

尚自分の契約形態、料金プランなどについては、何時でも簡単に電話会社に問い合わせれば判ることなので、もしもはっきりしていない場合は、この際今直ぐ確かめて記録を保全しておくことを強くお勧めする。

4) ケータイは2年毎に換えるべし

古い端末を後生大事に使っているのは、ユーザーにとっては最も不利な使い方であると心得るべきで、このようなユーザーが電話会社の大切なカモであることを再認識したいものだ。

先ずIT世界は日進月歩どころかもっと凄いスピードで進化を続けていることを忘れないで欲しい。この為古い道具を長年大切に使うという、美德はこの場合適切ではないのである。

ユーザーは何時も折り有らば買換え、機種変更、料金プラン変更を考え検討するべきで、それはケータイ使いこなしの必須条件である。

因みに現在の日本ではケータイの買換えは平均2.5年に一回とされていて、それがいわば常識、電話会社もユーザーも2年をベールに種々の設定がなされていると考えるべきなのである。

5) 先ずは機種変更を試みる

自分のケータイが購入後2年以上経っていたら、先ずは機種変更を試みるのがお奨めです。

機種変更というのは、同じ電話会社で新しい機種に換えてもらうことで、これには一切費用はかかりません。事務手数料無し、解約料もかかりません。

2年も経つとハード、ソフト共に驚くほど進化していて、古い端末を使っていたことをアホらしく感じることでしょう。

6) 新規購入或いは電話会社変更は買換え月で

新しい機種に買い換える、或いは他の電話会社に替わるという場合は、ムダな解約料がかからないように、買換え月をよくチェックしておくことが肝要です。第一はハードウェアを割賦で買っている場合、始めにゼロ円というのが実は割賦である時は少なくとも2年は待たないと残額支払いを生ずるし、その他にも割引プランを含む様々な「ボーナス」「特割り」などの2年間の縛りに対して解約月が一ヶ月間だけ指定されていることを胆に銘じておくことが重要です。

後者は放置していると、更に2年のローテーションが生まれてしまうので、結果的に高い解約料の負担に泣かされますから要注意です。

MNP (Mobile Number Portability) が 2006 年から実施されたことにより、各社の困り込みは厳しくなり、どの会社も簡単には Portability 予約番号を出さずに粘りますので、厄介な長電話を強いられることがあり不愉快な思いをすることもあります。

解約手数料については、ソフトバンクの場合などでは一旦昔のハッピーボーナスプランをホワイトプランに料金変更して、(これは無料で且つ電話で簡単) 数日後解約すると一挙に ¥10,500.00 だった解約料が半額の ¥5,250.00 になるという、バカみたいなテクニックもあり、これは電話会社が自ら教えてはくれないので、研究する必要があります。

C) ケータイの進化の背景

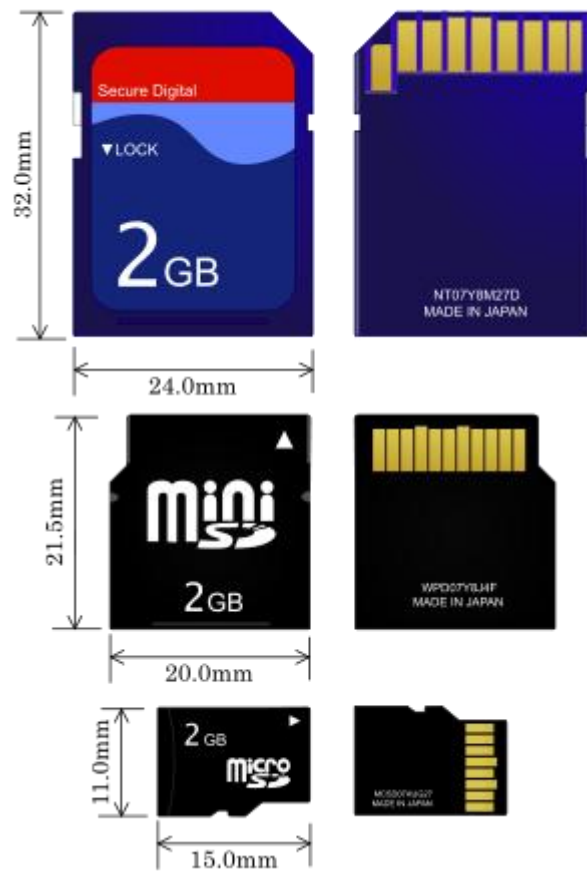
日本の携帯電話はその機能の多様性の故に、世界に冠たるものがあるが、逆にあまりにユーザーの要望が強過ぎて、そのシェア争いから、電話会社が複雑な機能を持たせ過ぎているため、携帯電話のガラパゴス化とさえ云われ、国際化という点では孤立しているそうである。

いずれにしても、進化の背景にあるのは、IT 産業のフルスピードによる発展であり、注目すべき点は、

リチウム・イオン電池の軽量化と持続性
液晶画面の廉価と高質化

メモリーカードの大進化 などが挙げられるが、就中メモリーカードは瞳目に値する。

SDカードは2000年に登場して以降コンパクト・フラッシュやメモリー・スティックを押しつけて進化して来たが、今ではマイクロSDと呼ばれる、従来の1/4のサイズで2GBの容量のものが、¥1,500.00程度で入手できてしまうのである。



さまざまなSDメモリーカード
(上からSD、miniSD、microSD)

—以上—